

研究計画概要

助成年度・種別	2017年度 一般研究助成
研究代表者	加藤弘通
所 属	北海道大学大学院教育学研究院
研究テーマ	いじめの深刻化の要因の検討とアセスメントツールの開発
研究計画概要	<p>本研究では、過去に報道されたいじめ事例の検討と、小学生・中学生を対象とした大規模調査をもとに、いじめの深刻化の要因を明らかにする。またそれとともに、どのような特徴があった場合、いじめが深刻化するリスクが高まるのかをアセスメントするツールを開発することを目的とする。</p> <p>具体的には、研究期間中に以下2つの研究を実施する。</p> <p>研究1：新聞記事データベースによる重大事例の分析</p> <p>研究1では、新聞社のデータベースを利用し、1980年代～2016年現在までのいじめに関する全報道を検討する。そしてその中でも被害者が自殺や深刻な状況に陥った事例を収集する。それらの事例の時代的な特徴を分析するとともに、通時的に共通する要因を抽出し、いじめの深刻化に関わる仮説的な要因を設定する。</p> <p>研究2：小中学生を対象としたいじめ深刻化要因の検討</p> <p>研究2では、研究1で抽出されたいじめ深刻化の要因から質問紙を作成し、小中学生を対象とした大規模な質問紙調査を行い、それらの要因の妥当性を検証する。</p> <p>以上の研究を通して、どのような特徴がある場合に、いじめが重大な問題にまで深刻化するのか、その深刻度を評価するアセスメントツールを開発する。</p>
選考委員からのコメント	<p>いじめは毎年数万・十数万件と発生しております。発生したいじめの深刻さは時間経過のなかで大きく変容していきます。その変容因子を時系列的に押さえることはかなり大変なことだと思いますが、いじめ深刻度評価アセスメントツールの開発の成功を期待しております。</p>